

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波及び第5波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。</p> <p>このモニタリングコメントでは、以下、B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）については「変異株（デルタ株）」、B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）については「変異株（オミクロン株）」とする。</p>
① 新規陽性者数	①-1	<p>都外居住者が自己採取し郵送した検体について、都内医療機関で検査を行った結果、陽性者として、都内保健所へ発生届を提出する例が見られている。</p> <p>これらの陽性者は、東京都の発生者ではないため、新規陽性者数から除いてモニタリングしている（今週 12 月 28 日から 1 月 3 日まで（以下「今週」という。）は 9 人）。</p> <p>(1) 新規陽性者数の 7 日間平均は、前回 12 月 29 日時点（以下「前回」という。）の約 44 人/日から、1 月 5 日時点で約 135 人/日に増加した。</p> <p>(2) 新規陽性者数の増加比が 100%を超えることは感染拡大の指標となり、100%を下回ることは新規陽性者数の減少の指標となる。今回の増加比は約 308%となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数の 7 日間平均は、1 月 5 日時点で約 135 人/日と、約 3 か月ぶりに 100 人/日を上回った。南アフリカ等で、変異株（デルタ株）から変異株（オミクロン株）への急速な置き換えの進行が報告されてお</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>り、我が国においても、置き換わりによる急速な感染拡大に警戒する必要がある。</p> <p>イ) 増加比は、前回の約155%から、今回は約308%と著しく上昇し、これまでに経験したことのない高い水準になった。新規陽性者数の7日間平均は、1か月前の約16人/日から約8倍に増加しており、現時点における増加比が今後も続けば、爆発的な感染拡大となる。</p> <p>ウ) 今週の新規陽性者数は、年末年始中の休診による検査数の減少、検査報告の遅延等の影響を受けているため、報告数よりもさらに多い可能性がある。</p> <p>エ) 今週は、都内でも、海外への渡航歴がなく、感染経路が不明な変異株（オミクロン株）の陽性者が37人（1月5日時点の累計）と増加した。感染経路が追えない事例から、変異株（デルタ株）と比較すると感染拡大のスピードが速いとされる変異株（オミクロン株）の感染が、急速に拡大していると思われる。</p> <p>オ) 検疫以外で判明した、渡航歴あり又は陽性者の濃厚接触者である都民の変異株（オミクロン株）の陽性者は、35人（1月5日時点の累計）と増加した。</p> <p>カ) 都では、入国帰国後、自宅で14日間待機する都民の方を対象に、感染の早期発見・不安解消のため、PCR検査キットの配付を開始した。</p> <p>キ) 変異株 PCR スクリーニングやゲノム解析を実施するとともに 諸外国の動向や、WHO、国立感染症研究所における変異株（オミクロン株）の感染性、重症度、ワクチン効果に与える影響などの評価も踏まえ、発生状況を把握し、適切に対応していく必要がある。</p> <p>ク) 都では、東京都健康安全研究センターにおいて、変異株（オミクロン株）に対応したPCR検査を実施している。また、変異株を早期に探知するため、民間検査機関と連携して、新型コロナウイルス感染者のゲノム解析の規模拡大を進めている。</p> <p>ケ) 感染拡大のリスクが高まっており、ワクチン接種を検討中の都民に、ワクチン接種は、重症化の予防効果と死亡率の低下が期待されていることを周知し、ワクチン接種をさらに推進する必要がある。</p> <p>コ) ワクチンを2回接種した後も感染する可能性があり、軽症や無症状でも周囲の人に感染させるリスクがあるため、ワクチン接種後も、普段会っていない人との飲食や旅行、その他の感染リスクの高い行動を引き続き避けるとともに、基本的な感染防止対策を徹底する必要がある。</p> <p>サ) 変異株（オミクロン株）の感染拡大に備え、ワクチンを2回接種した都民に対する3回目の接種を早急に推進する必要がある。このため、都は区市町村と連携して、順次、ワクチンの3回目の追加接種ができるよう、体制構築を進めている。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>シ) 各都道府県における変異株（オミクロン株）の感染状況に応じ、効果的かつ早急にワクチンを配付することが求められる。</p> <p>ス) 気温が低い中でも換気を励行し、手洗い、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、3密（密閉・密集・密接）の回避、人混みを避けて人との間隔をあける等、基本的な感染防止対策を徹底することが重要である。</p> <p>セ) 東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによると、1月4日時点で、東京都のワクチン接種状況は、全人口で1回目78.0%、2回目77.2%、12歳以上（接種対象者）では1回目85.9%、2回目85.1%、65歳以上では1回目92.4%、2回目92.0%であった。</p>
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満6.1%、10代6.9%、20代28.8%、30代23.4%、40代16.3%、50代8.8%、60代3.7%、70代2.9%、80代2.5%、90歳以上0.6%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 50代以下の割合が新規陽性者全体の9割以上を占めており、中でも20代が28.8%と各年代の中で最も高い割合となっている。12歳未満はワクチン未接種であることから、保育園・幼稚園や学校生活での感染防止対策の徹底が求められる。</p> <p>イ) 感染の中心である若年層を含めたあらゆる年代が感染によるリスクを有しているという意識を持つよう、引き続き啓発する必要がある。</p>
	①-3	<p>(1) 新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、前週（12月21日から12月27日まで（以下「前週」という。））の36人から、今週は40人となり、その割合は7.7%となった。</p> <p>(2) 65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、前回の約4人/日から1月5日時点で約9人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 医療機関や高齢者施設等では、ワクチンを2回接種した職員及び患者や入所者も、基本的な感染防止対策を徹底・継続するとともに、3回目接種を検討する必要がある。また、職員や患者家族からの感染防止対策を徹底する必要がある。</p> <p>イ) 高齢者は、重症化リスクが高く、入院期間も長期化することが多いため、家庭内及び施設等での徹底した感染防止対策が重要である。</p>
	①-4	
	①-5	<p>(1) 今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、同居する人からの感染が56.8%と最も多かった。次いで職場での感染が12.5%、会食による感染が9.4%、施設（施設とは、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、保育園、学校等の教育施設等」をいう。）及び通所介護の施設での感染が7.8%であった。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数	ーイ	<p>(2) 今週は 20 代及び 30 代における会食での感染例が見られ、都内の神社では職員のクラスターが発生した。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新年会や賀詞交歓会、成人式等での、普段会っていない人との会食の機会は、新たな感染拡大の契機になる可能性がある。長時間、大人数で会話をする事等により感染リスクが高まることから、友人や同僚等との会食は、できる限り短時間、少人数とし、会話時はマスクを着用することを繰り返し啓発する必要がある。</p> <p>イ) 施設での感染を防止するため、保育園・幼稚園、教育施設、高齢者施設等における、感染防止対策のより一層の徹底が必要である。</p> <p>ウ) 職場での感染を防止するため、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、時差通勤、オンライン会議の推進、3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められる。</p>
	①-6	<p>今週の新規陽性者 521 人のうち、無症状の陽性者が 64 人、割合は前週の 17.4% から 12.3% となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>無症状や症状の乏しい感染者からも感染が広がる可能性があり、症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意して日常生活を過ごす必要がある。</p>
	①-7	<p>今週の保健所別届出数を多い順に見ると、世田谷 57 人 (10.9%) と最も多く、次いで新宿区 46 人 (8.8%)、みなと 37 人 (7.1%)、大田区 31 人 (6.0%)、目黒区 29 人 (5.6%) であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>感染拡大に備え、都、保健所、医療機関等が連携し、地域全体で早期発見、早期治療の体制を強化する必要がある。</p>
	①-8 ①-9	<p>今週は、3 か月ぶりに、1 か所の保健所で 50 人を超える新規陽性者数が報告された。</p> <p>【コメント】</p> <p>変異株（デルタ株）から変異株（オミクロン株）への置き換わりによる、急速な感染拡大に警戒する必要がある。</p>
② #7119 における発熱等相談件数		<p>#7119 の増加は、感染拡大の予兆の指標の 1 つとしてモニタリングしてきた。都が令和 2 年 10 月 30 日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。</p>
	②	<p>(1) #7119 における発熱等相談件数の 7 日間平均は、前回の 47.9 件から 1 月 5 日時点で 84.3 件に増加した。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均は、前回の約 629 件から、1 月 5 日時点で約 1,270 件</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
② #7119 における発熱等相談件数		<p>に増加した。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 発熱等相談件数の7日間平均は増加しており、感染拡大の予兆が見られる。なお、連休中は、#7119 における発熱相談件数が増加する傾向にあるため、その影響も考慮し、評価をしていく必要がある。</p> <p>イ) 都は、年末年始に回線数を増強して、発熱相談センターの体制強化を図った。引き続き#7119 と発熱相談センターの連携を強化していく必要がある。</p>
③ 新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比		<p>新規陽性者における接触歴等不明者数は、感染の広がりやを反映する指標であるだけでなく、接触歴等不明な新規陽性者が、陽性判明前に潜在するクラスターを形成している可能性があるためモニタリングを行っている。</p> <p>③-1 (1) 接触歴等不明者数は、7日間平均で前回の約27人/日から、1月5日時点で91人/日となった。 (2) 今週の接触歴等不明者数の合計は329人で、年代別の人数は、10代以下20人、20代109人、30代85人、40代58人、50代28人、60代13人、70代9人、80代以上7人であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>接触歴等不明者数は、3週間連続して大きく増加した。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が重要である。</p> <p>③-2 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比が100%を超えることは、感染拡大の指標となる。1月5日時点の増加比は、前回の約171%から約342%と大きく上昇した。</p> <p>【コメント】</p> <p>増加比は、前回の約171%、今回の約342%と、100%を大きく超える値が続いている。感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐため、基本的な感染防止対策を常に徹底することが重要である。</p> <p>③-3 (1) 今週の新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合は、前週の約60%から約63%となった。 (2) 今週の年代別の接触歴等不明者の割合は、10代以下、70代及び80代以上を除く全年代で60%を超えている。</p> <p>【コメント】</p> <p>いっどこで感染したか分からないとする陽性者が、幅広い年代で高い割合となっている。新規陽性者との接触歴がある無症状者へのPCR検査等、積極的疫学調査の充実が求められる。</p>

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
④ 検査の陽性率 (PCR・抗原)	④	<p>PCR検査・抗原検査（以下「PCR検査等」という。）の陽性率は、検査体制の指標としてモニタリングしている。迅速かつ広くPCR検査等を実施することは、感染拡大防止と重症化予防の双方に効果的と考える。</p> <p>7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の0.8%から1月5日時点で2.5%となった。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約5,900人から、1月5日時点で約4,624人となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) PCR検査等件数が連休の影響で減少した一方、新規陽性者数が増加したため、PCR検査等の陽性率は上昇した。</p> <p>イ) ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、倦怠感等の症状がある場合や、症状がなくても自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センターまたは診療・検査医療機関に電話相談し、早期にPCR検査等を受けるよう周知する必要がある。都は、公表を了解した診療・検査医療機関のリストをホームページ上に公表している。</p> <p>ウ) また都では、感染リスクの高い環境にあるなど感染不安を感じる無症状の都民が、薬局や民間検査機関等において、PCR検査等を無料で受けられる取組を都内約180か所で行っている。</p>
⑤ 救急医療の東京 ルールの適用件数	⑤	<p>東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の57.7件から1月5日時点で66.4件と、依然として高い水準で推移している。</p> <p>【コメント】</p> <p>東京ルールの適用件数は約66件で、新型コロナウイルス感染症の発生前と比較して高い水準で推移しており、二次救急医療機関や救命救急センターでの救急患者の受入れ体制への影響は拡大傾向にある。また、救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、過去の水準と比べると依然延伸している。</p>
⑥ 入院患者数	⑥-1	<p>(1) 入院患者数は、前回の206人から、1月5日時点で373人に増加した。</p> <p>(2) 今週、新たに入院した患者は186人であった。</p> <p>(3) 陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な疑い患者について、都内全域で約123人/日を受け入れている。</p> <p>【コメント】</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
⑥ 入院患者数		<p>ア) 入院患者数は、11月18日以降、100人を下回って推移していたが、12月18日に100人を超え(101人)、1月5日時点では373人となった。入院患者数は増加傾向にあるものの、現時点では、通常医療との両立が安定的に可能な状況にあると思われる。</p> <p>イ) 現在、変異株(オミクロン株)の患者と変異株(デルタ株)の患者の同室での入院療養は認められていない。この状況が続けば、病床がひっ迫する恐れがあり、対処方針の変更が求められる。</p> <p>ウ) 現在、都における確保病床数はレベル1(4,839床)であるが、「変異株(オミクロン株)の感染拡大に備えた特別対応」として、変異株(オミクロン株)陽性者の急増時にはレベル3(確保病床6,919床)の体制に移行することとした。</p> <p>エ) 変異株(オミクロン株)の感染拡大を防止するため、都は、濃厚接触者と確認された方を特定の宿泊療養施設で隔離し、健康観察している。また、変異株(オミクロン株)の感染拡大に備え、宿泊療養施設の更なる確保を進めている。</p> <p>オ) 都では、軽症者等を一時的に受け入れ、酸素投与や中和抗体薬による治療なども行える酸素・医療提供ステーションを開設している。</p> <p>カ) 感染拡大に備え、高齢者施設等におけるスクリーニング検査の実施、往診等による中和抗体薬投与の体制整備が求められる。また、中和抗体薬及び抗ウイルス薬の予防的投与を視野に入れた、国による安定的な供給が求められる。</p> <p>キ) 現在、入院調整本部は、都内全域の変異株(オミクロン株)の陽性者及び疑い患者の入院調整を実施しており、連休中は円滑に調整を行った。変異株(オミクロン株)の感染拡大に備え、新型コロナウイルス感染者情報システムの機能拡充や体制強化を図っている。</p>
	⑥-2	<p>1月5日現在、あらゆる年代の患者が入院している。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 保育園や学校等での感染拡大に備える必要がある。このため都は、小児科を標榜する医療機関に対し、診療体制の確保を依頼している。</p> <p>イ) 第5波での妊婦の感染者急増を踏まえ、都は、分娩取扱い医療機関等に対し、診療体制の確保を依頼している。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
⑥ 入院患者数	⑥-3 ⑥-4	<p>検査陽性者の全療養者数は、前回の451人から1月5日時点で1,206人となった。内訳は、入院患者373人（前回は206人）、宿泊療養者235人（前回は88人）、自宅療養者184人（前回は64人）、入院・療養等調整中414人（前回は93人）であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 全療養者に占める入院患者の割合は約31%、宿泊療養者の割合は約19%であった。現在、変異株（オミクロン株）の患者は全員入院とされており、入院患者数の増加に影響を与えている。</p> <p>イ) 変異株（デルタ株）よりも感染拡大のスピードが速いとされる変異株（オミクロン株）の急激な感染拡大に備え、海外の感染状況を踏まえ、感染者の基礎疾患、重症度、年齢構成などを把握、分析しながら入院医療、宿泊及び自宅療養の計画を前倒しする必要がある。</p> <p>ウ) 都は、14か所（受入れ可能数4,200室）の宿泊療養施設を確保し、施設の受入時間帯を拡大するなど、効率的な運営に取り組んできた。また、「変異株（オミクロン株）の感染拡大に備えた特別対応」として、1月中に4,760室を確保するとともに、今後の変異株（オミクロン株）の患者の受入れに向けて、更なる宿泊療養施設の確保、開設の準備を進めている。</p> <p>エ) 変異株（オミクロン株）の感染拡大による自宅療養者の急速な増加に備え、健康観察の充実を図る必要がある。このため都は、陽性判明直後からかかりつけ医や診療・検査医療機関が健康観察を開始する取組、地域の医師等による電話・オンラインや訪問診療の充実、フォローアップセンターの相談員の増員等を進めるとともに、予め人材情報を登録可能な「東京都医療人材登録データベース」を設置し、更なる体制強化を進めている。</p> <p>オ) 都はこれまで、パルスオキシメータを区市保健所へ26,660台配付した。また、フォローアップセンターからパルスオキシメータの自宅療養者宅への配送、自宅療養者向けハンドブックの配付、食料品等の配送を行っている。感染の拡大に備え、酸素濃縮器をさらに確保するとともに、全ての自宅療養者に行き届くよう、パルスオキシメータの確保が求められる。</p>
⑦ 重症患者数		<p>東京都は、その時点で、人工呼吸器又はECMOを使用している患者数を重症患者数とし、医療提供体制の指標としてモニタリングしている。</p> <p>東京都は、人工呼吸器又はECMOによる治療が可能な重症用病床を確保している。</p> <p>重症用病床は、重症患者及び集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者（人工呼吸器又はECMO</p>

モニタリング項目	グラフ	1月6日 第73回モニタリング会議のコメント
⑦ 重症患者数		の治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者、及び離脱後の不安定な状態の患者等)の一部が使用する病床である。
	⑦-1	<p>(1) 重症患者数は、前回の1人から1月5日時点で3人となった。</p> <p>(2) 今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は2人(前週は0人)、人工呼吸器から離脱した患者は1人(同1人)、人工呼吸器使用中に死亡した患者はいなかった(同0人)。</p> <p>(3) 今週、新たにECMOを導入した患者はなく、ECMOから離脱した患者もいなかった。1月5日時点において、重症患者のうちECMOを使用している患者はいなかった。</p> <p>(4) 1月5日時点で集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者は、人工呼吸器又はECMOによる治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者等9人(ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者1人を含む)(前回は8人)、離脱後の不安定な状態の患者は4人(同1人)であった。</p> <p>【コメント】 1月5日時点で、重症患者数は3人であり、救命救急医療提供体制との両立が可能であると考え。現時点で、変異株(オミクロン株)感染者の中から重症患者は発生していないが、今後の推移に注視する必要がある。</p>
	⑦-2	<p>1月5日時点の重症患者数は3人で、年代別内訳は50代が2人、60代が1人である。性別では、男性2人、女性1人であった。</p> <p>【コメント】 ア) 高齢者のみならず、肥満、喫煙歴のある人は若年であっても重症化リスクが高い。あらゆる年代が感染による重症化リスクを有していることを啓発する必要がある。 イ) 今週報告された死亡者数は1人(60代1人)であった。1月5日時点で累計の死亡者数は3,175人となった。</p>
⑦-3	<p>新規重症患者(人工呼吸器装着)数の7日間平均は、1月5日時点で0.4人/日であった。</p> <p>【コメント】 今週新たに人工呼吸器を装着した患者は2人であった。一方、重症患者3人のうち1人は、人工呼吸器管理期間が14日以上に及ぶ長期化した重症患者となっている。</p>	